

衆天說之不窮眞際若人信愛少分脩行

能於明道不憂諸難能於闇道不犯諸灾能

150 於他方異處常得安樂何況專脩汝等弟子

及諸聽衆散於天下行吾此經能爲君王安

護

境界譬如高山上大有大火一切國人无不覩

者

君王尊貴如彼高山吾經利益同於大火若

四 經典の性質

此の經は彌師訶が岑穩僧伽に對して安樂道を說いたものであること前に述べた通りである。彌師訶のメシヤに當ることは今更説く要は無いが、岑穩僧伽 *ts'ēn-wēn-sēng-ch'ieh* とは何を指すのであらうか。此の語から直ちに思ひ浮べられるのは、大秦景教三威蒙度讚に見ゆる岑穩僧法王といふ名であつて、彼と此とは必ず同一の名を寫したものに相違ない。或は僧伽と書き、或は單に僧と書いてある所から見ても、普通に漢文佛典に見ゆるやうに、梵語の *sāṅgha* に對せしめたものでないかとは、一應何人も考へ附く所であらうが、再考すれば決してそうでは無い事がわかる。先づ蒙度讚の岑穩僧法王といふ名について考へると、此の名はそこに記された二十二法王中の一人と

能

行用則如光明自然耀岑穩僧伽重起請

155 益彌益師訶曰汝當止勿復更言譬如良

井水則

无窮病苦新念不可多飲恐水不消便成勞

復汝等如是善性初興多聞致疑不可更說

時諸大衆聞是語已頂受歡喜禮退奉行

志玄安樂經